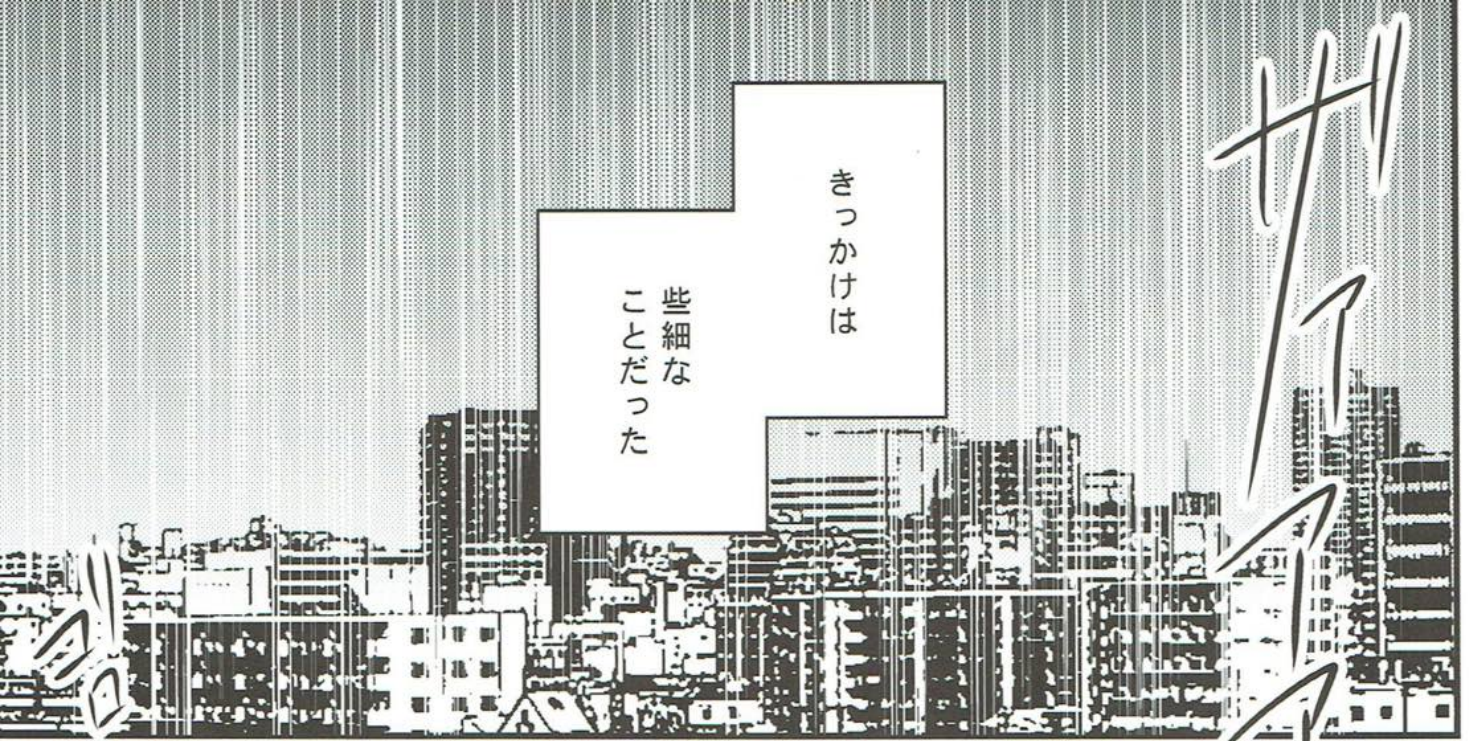




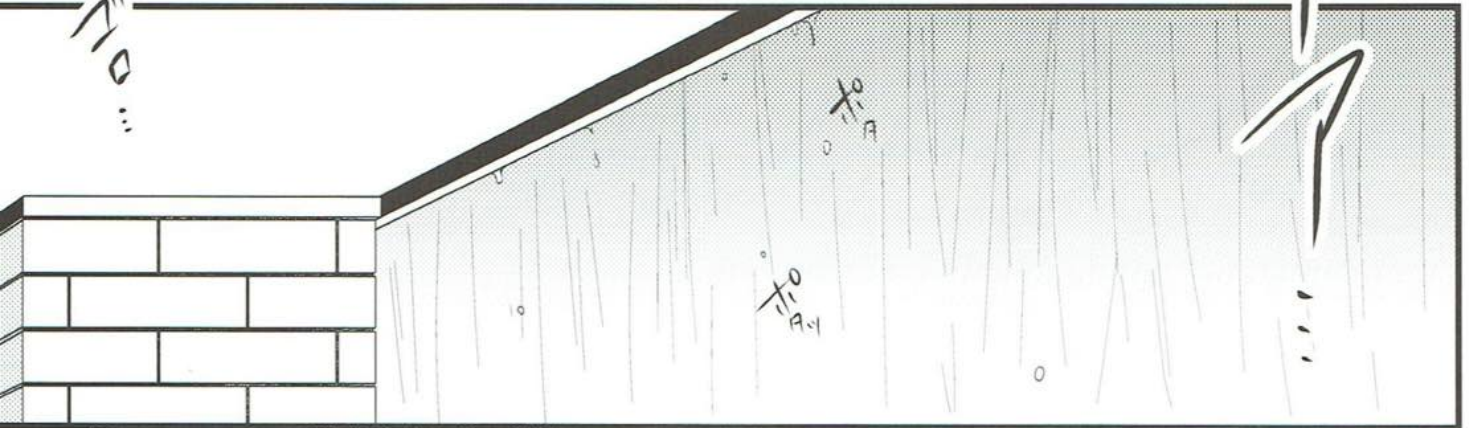
エレンとレヴィ

EREN  
×  
LEVI  
R-18



些細な  
ことだった

きっかけは

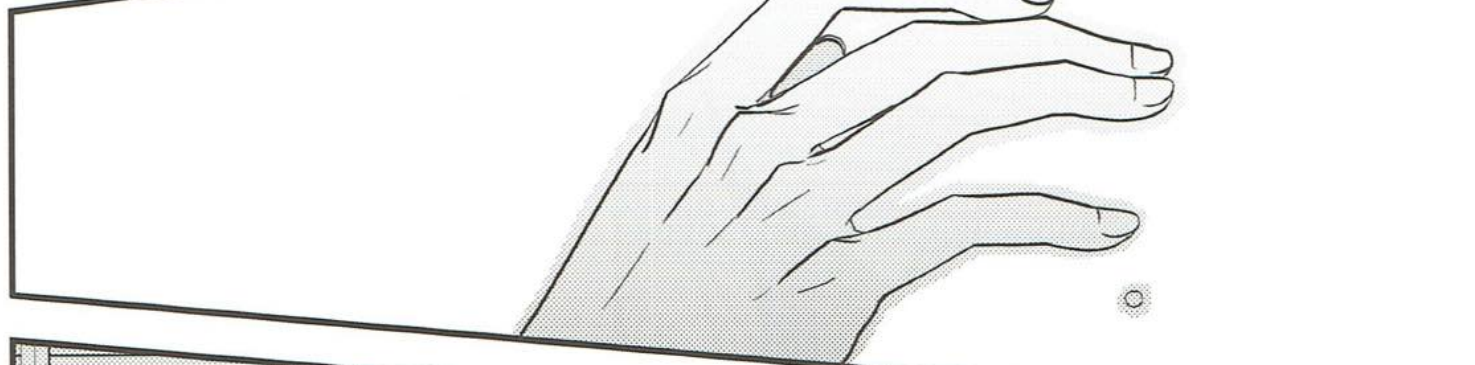
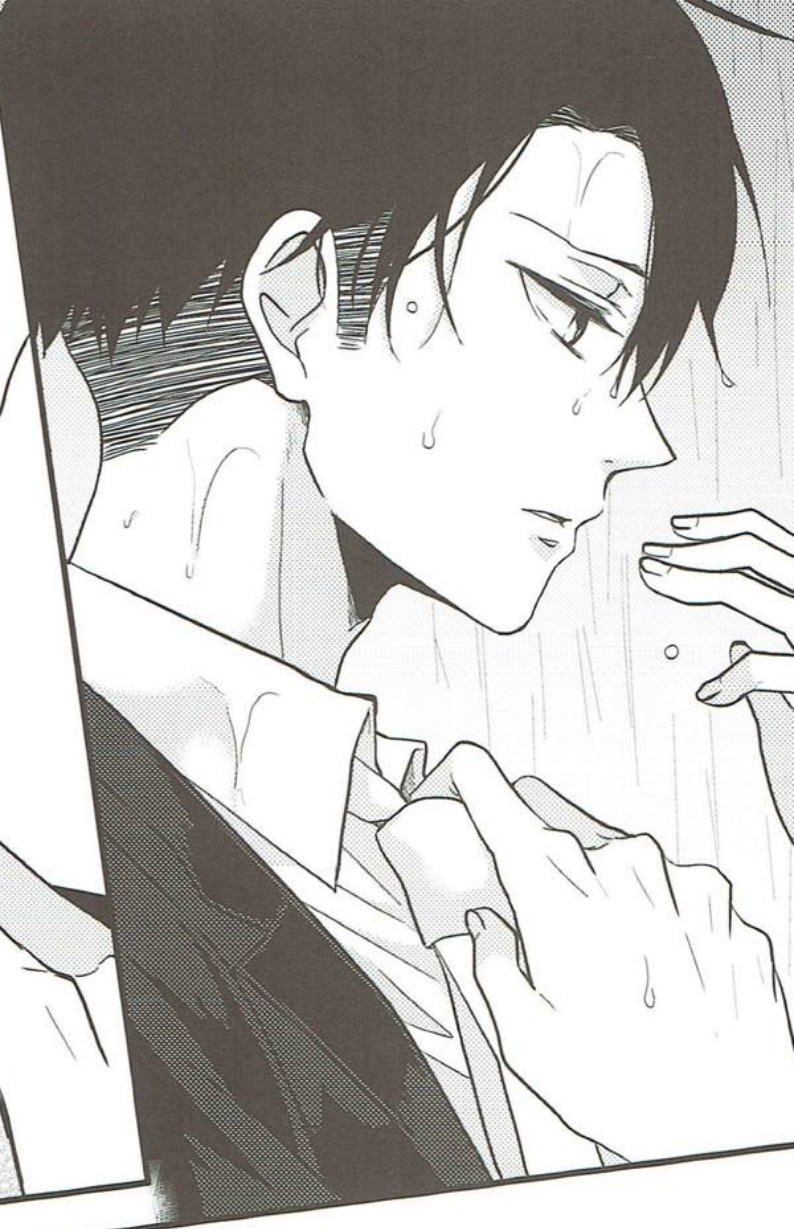


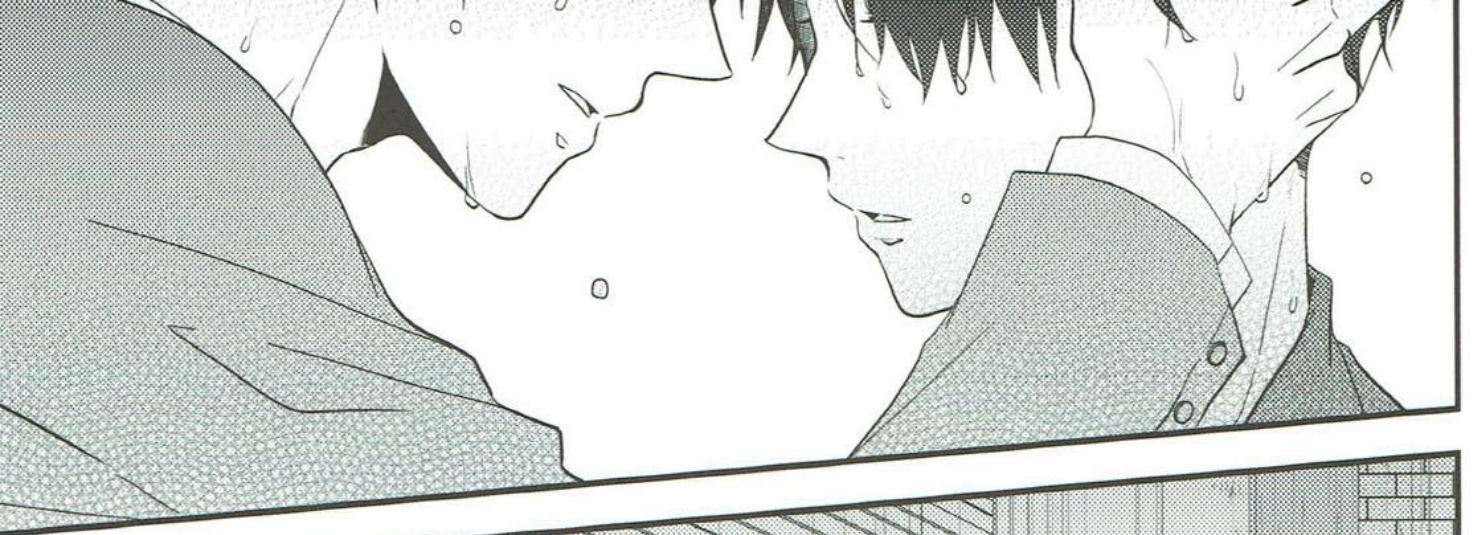
…あーあ、

ずぶ濡れ…



は…





ただ、

「触れてみたい」と  
思っただけだった



—おい、

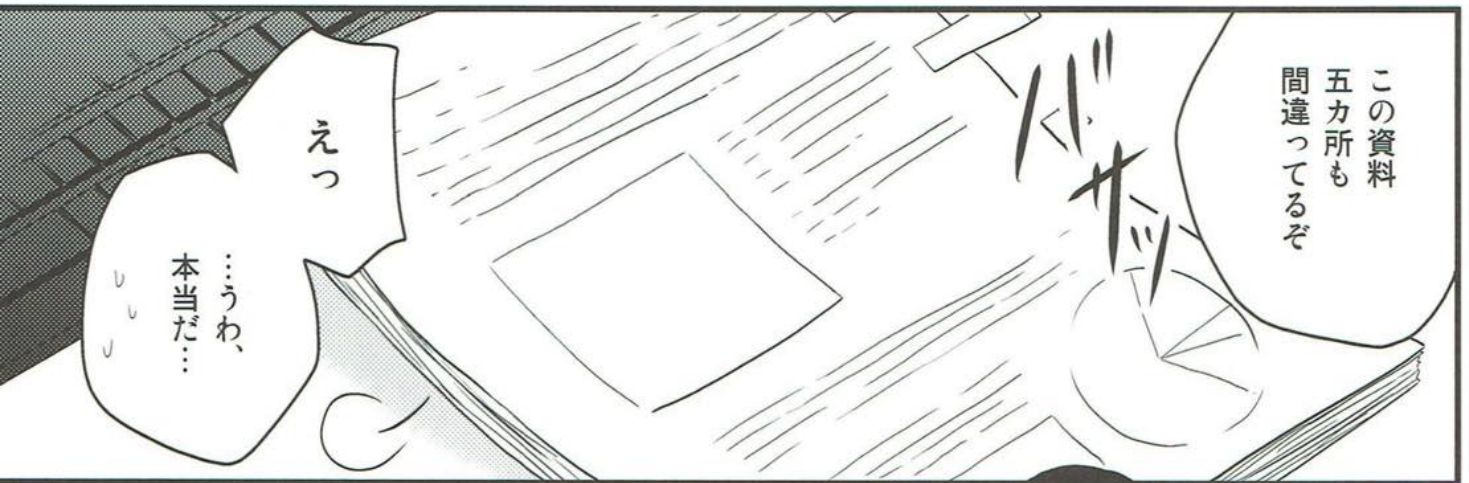
イエーガー

いっつ!!



課長……

あ、



この資料  
五カ所も  
間違ってるぞ

えっ

……うわ、  
本当だ……



次の会議で  
使うからな

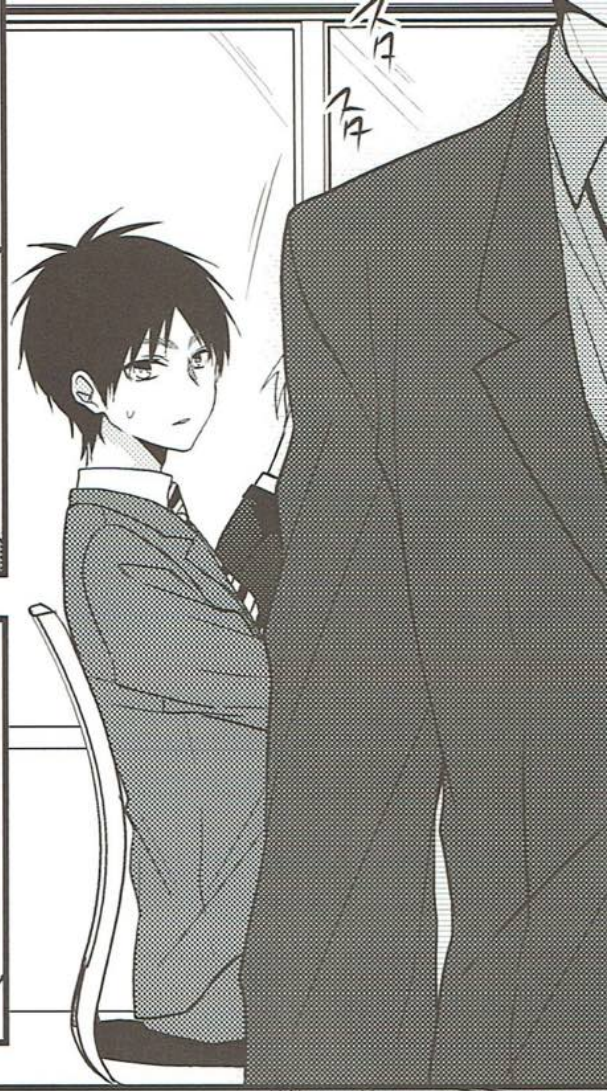
一時間で直せ

いちっ……！

何か文句  
あんのか？

……いえ……

すぐ  
直します……





実は全部オレの夢だったとか？

…いや、でも

朝起きたらきっちり  
畳まれたタオルが  
置いてあったしな…

オレやらわーし…

☆  
☆  
☆

カ  
カ



おいおい  
ヨユーだな

間に合わなく  
なっても  
知らねえぞ

うるせえし

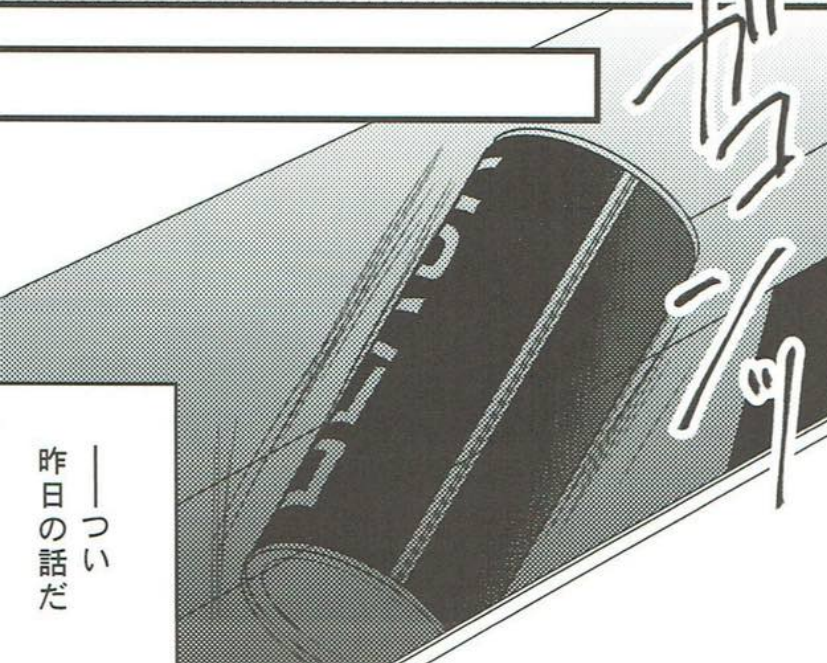


カ  
カ  
カ

あ？

どうした？

…ユーヒー  
買ってくる



カ  
カ  
カ

— つい  
昨日の話だ



あの後  
オレは

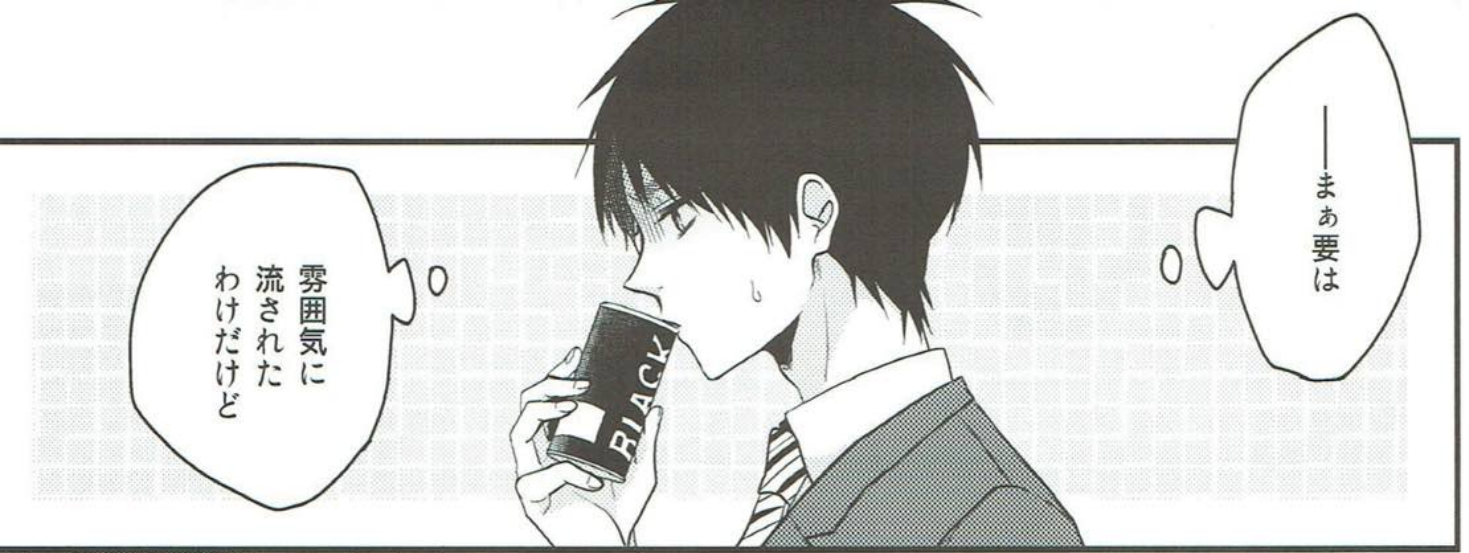
課長を抱いた

どうして  
そんなこと  
になったんだか

訳わかんねえ  
けど…

このままじゃ  
風邪をひくとか  
オレの家が近いとか

そんな理由をつけて  
うちに連れてきて



雰囲気  
に  
流された  
わけだけど

——まあ要は



途中何度か  
我に返って

何してんだ  
オレって  
思ったけど

そんな思考も  
雨の音に全部  
かき消された



もう少し

なんか、  
こう……  
……



……っか  
あの人

部下にケツ掘られた  
次の日だっのに  
平然としすぎじゃね？



なんだ？



だってオレ、  
ホモじゃねえし  
……………多分



別にあの人と  
どうなりたい  
訳でもない

課長だって  
どうせ  
犬に噛まれた  
程度にしか思っ  
てない気がする…



危ねえな…  
気をつけるよ

すみません…  
ポットとして  
ました

否が応にも  
昨日の光景が  
頭を過ぎる



うちの、  
シャンプーの匂い

……

同じ匂い  
させておいて  
平然としてるとか

どんな  
精神力してんだ  
あの人

きつと、  
あれは事故だ

たまたま  
互いに溜まってて

雨で濡れて  
人肌恋しくなった  
ところに

たまたま  
互いが近くにいた



セフッ  
……  
本当になんとも  
思われてねえのかな……

そういう  
偶然が重なって  
起こっただけ

そう思って  
忘れるのが  
一番かもしれない

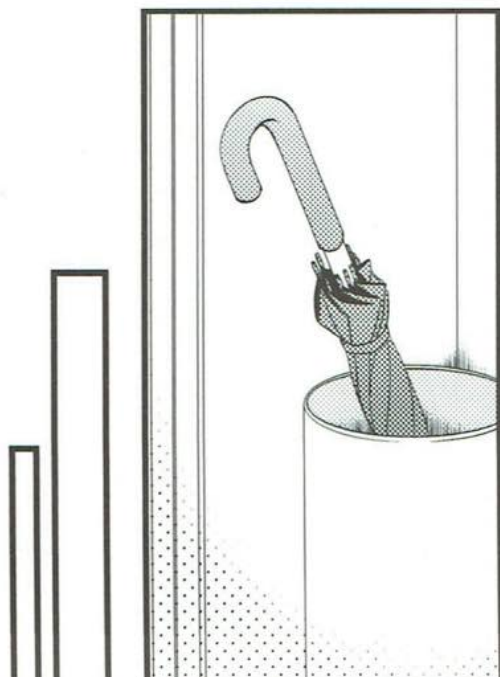
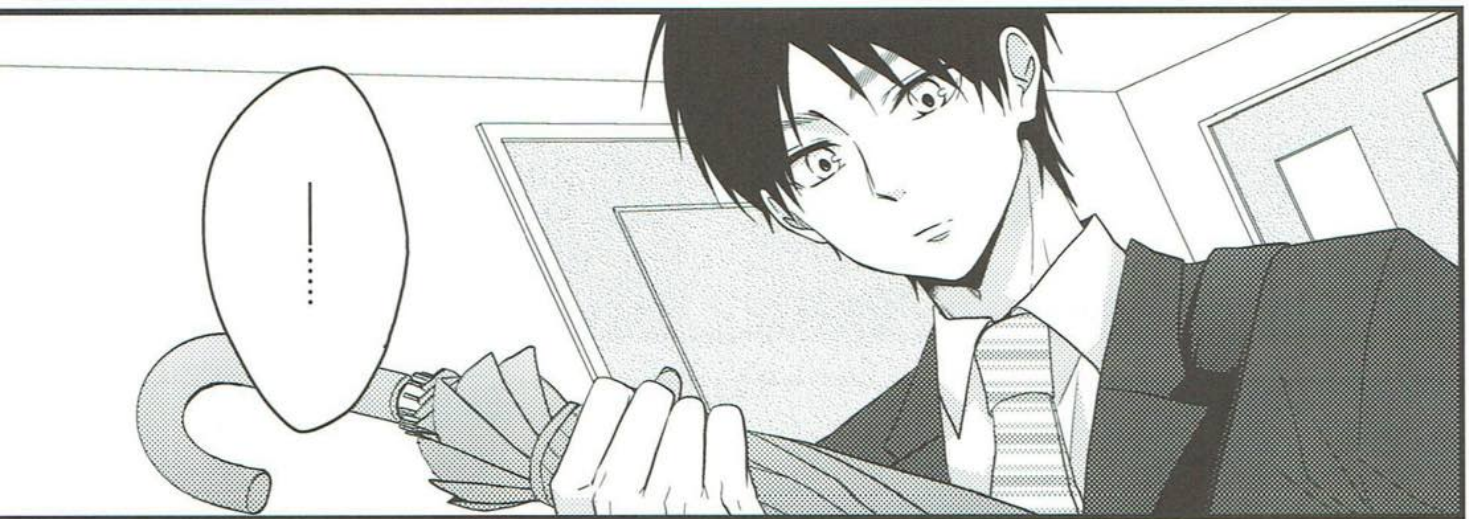
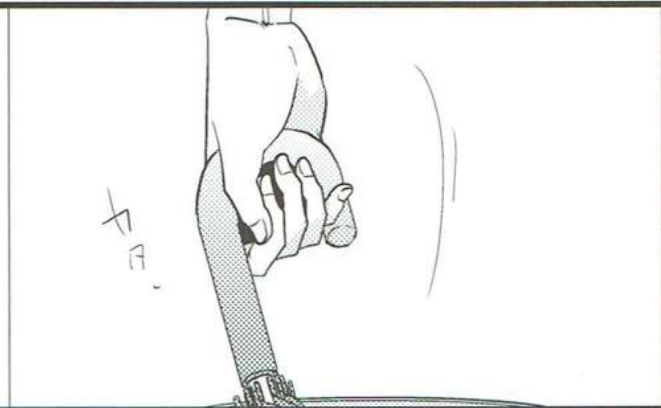


…本日は午後より  
強い雨が降る見通し  
となっております

その雨は  
明け方ごろまで  
続くでしょう



……雨か





降りすぎ  
だろ……

ゲリラ……

ニヒトヒト



カチャツ



!



まだ  
残ってたのか

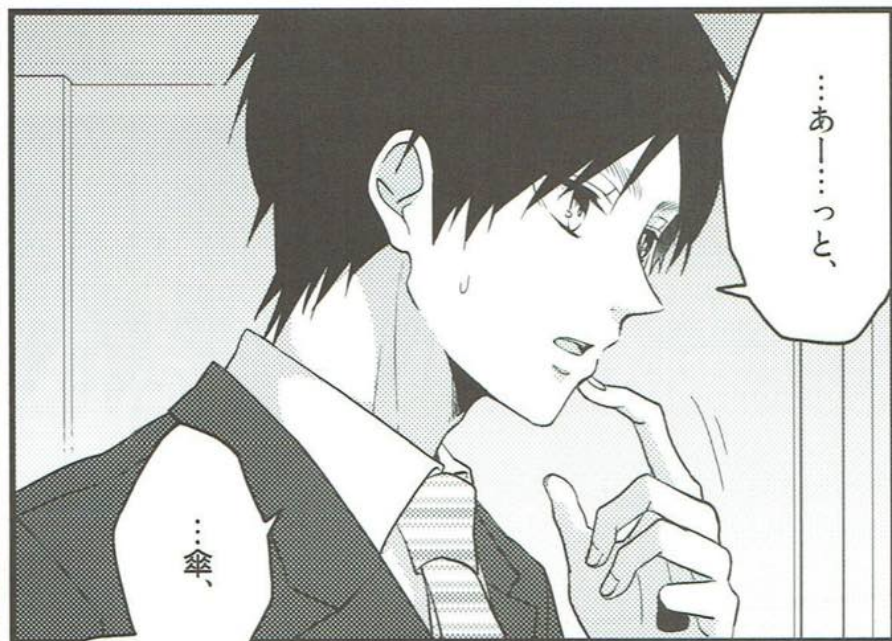
課長

月曜提出の資料  
切りのいい所まで  
終わらせてたくて

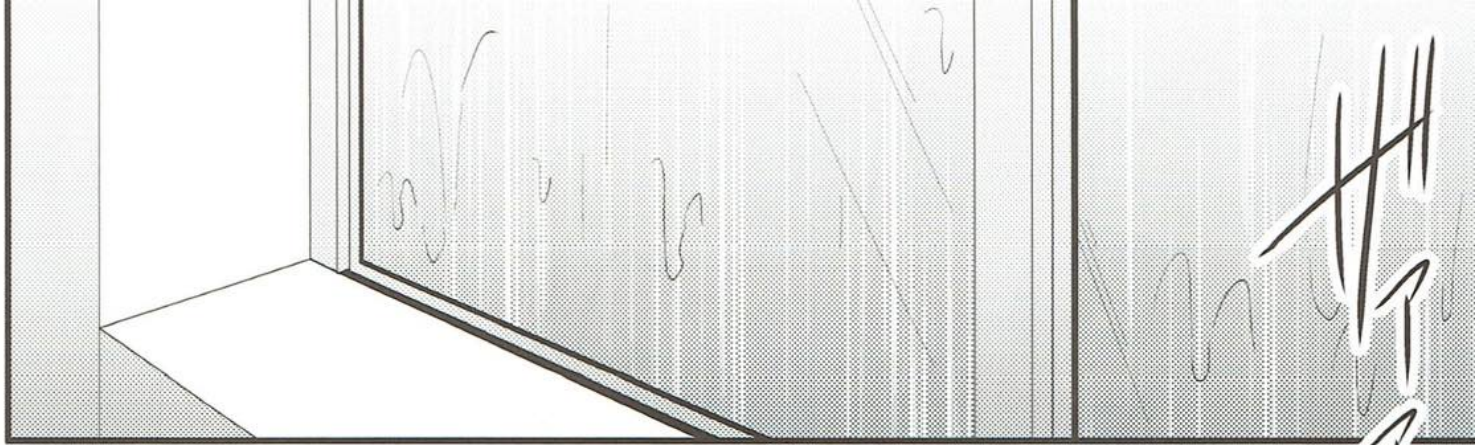


……

お前……







お前も  
帰るなら



送って  
やろうか?





そもそも  
「正しい」って  
なんだっけ

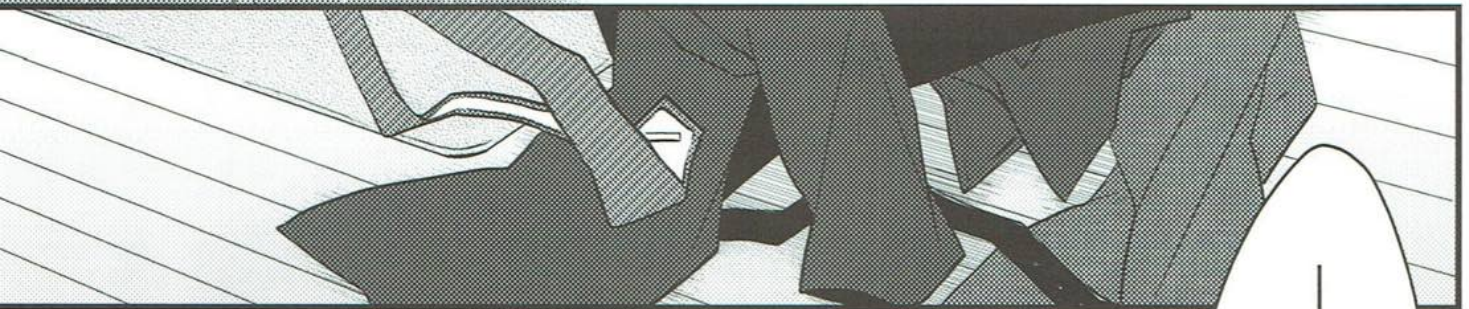


正しい思考も  
全部かき消して  
くれるから

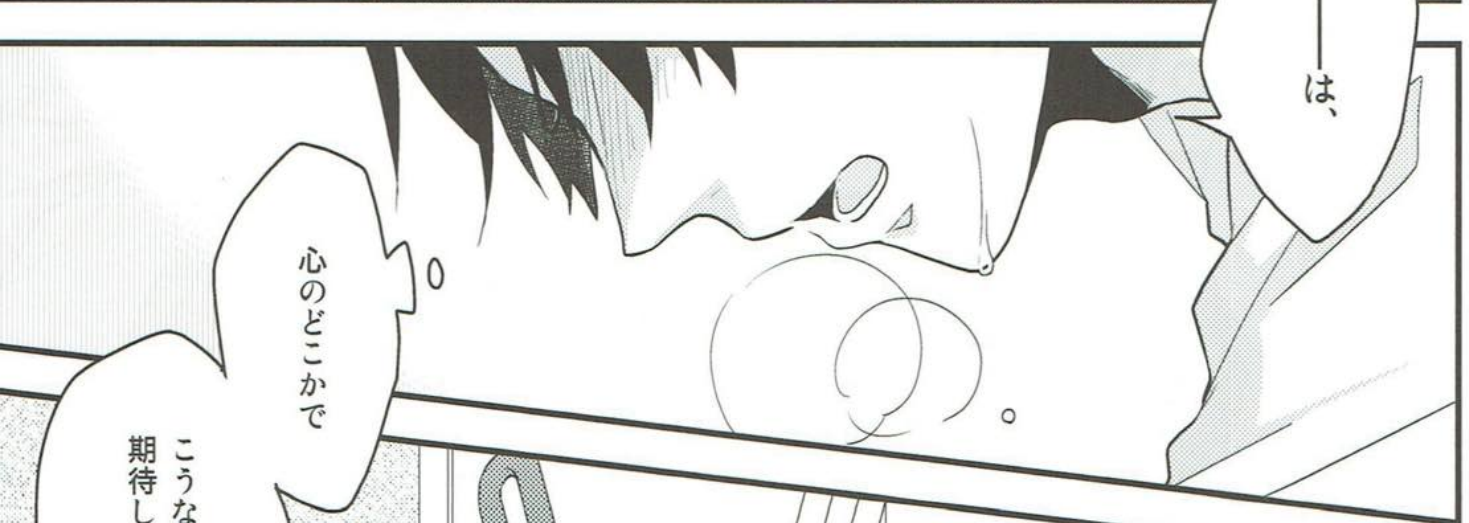


雨降りには

色々と  
都合がいい

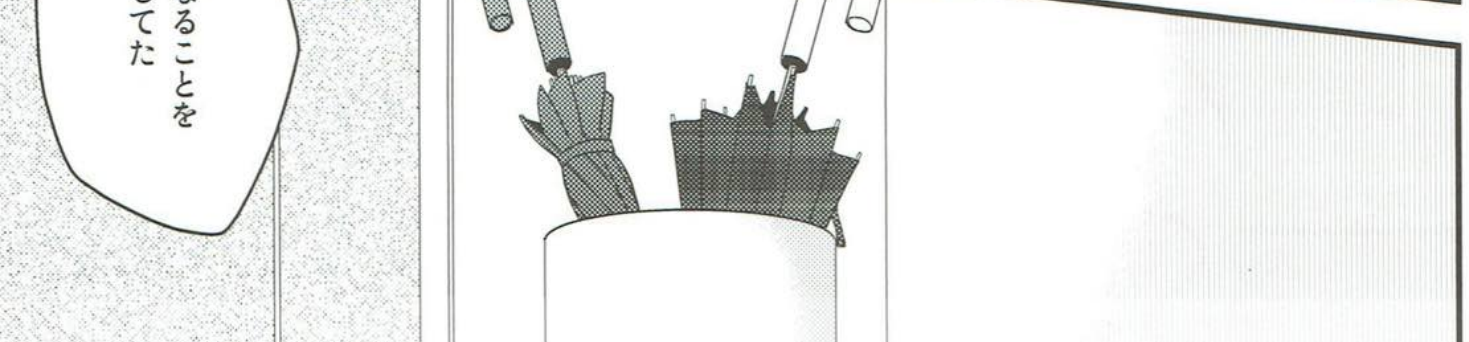


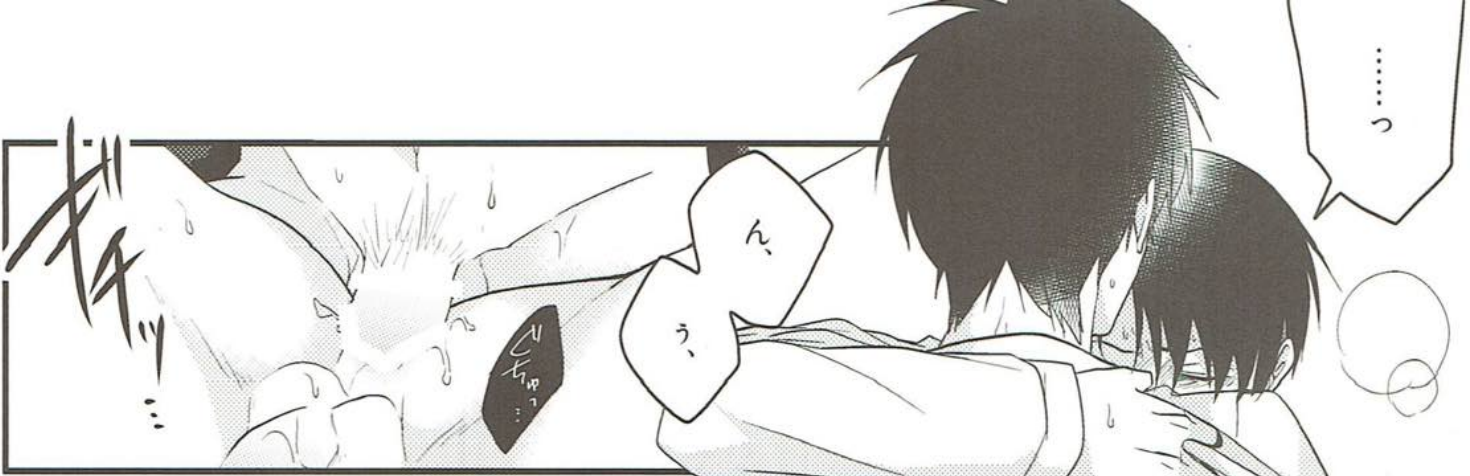
—は、

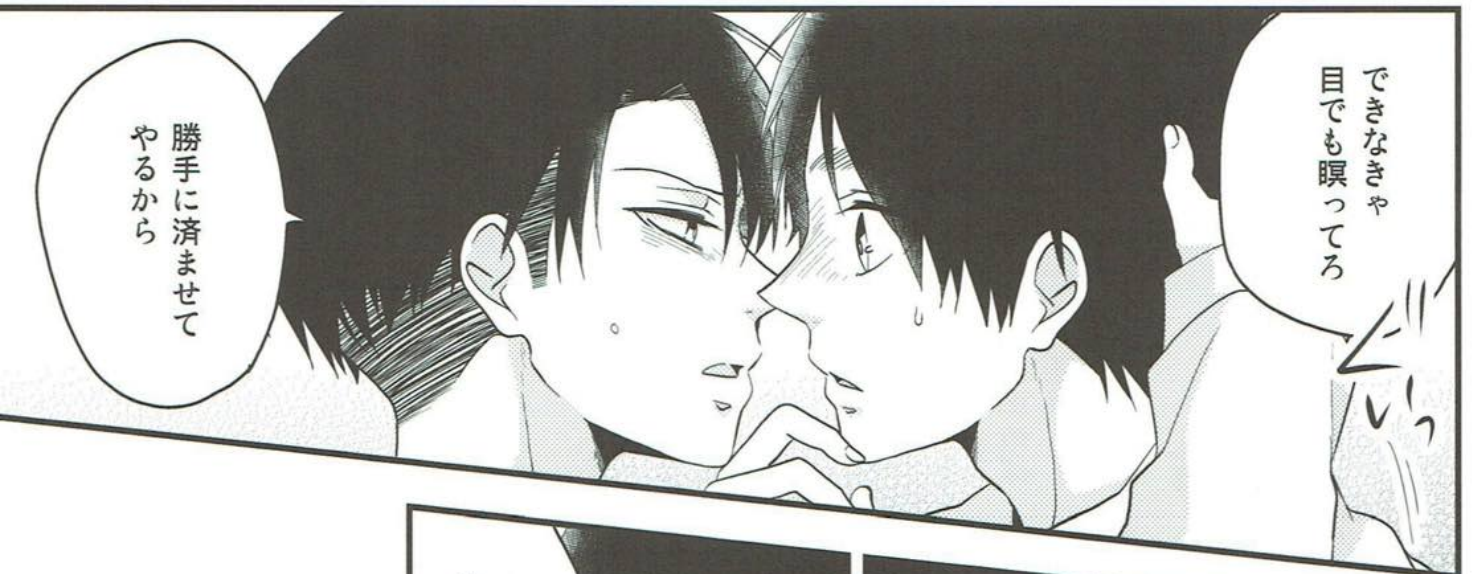


心のどこかで

こうなることを  
期待してた





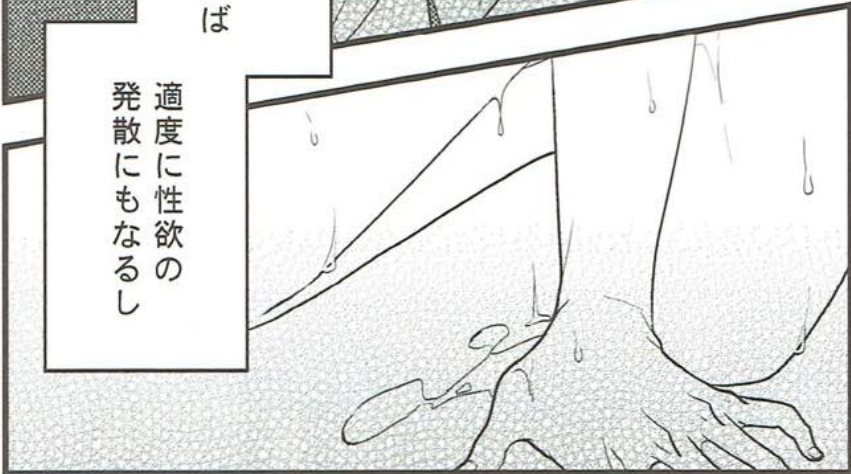


その日から  
雨の夜は自然と



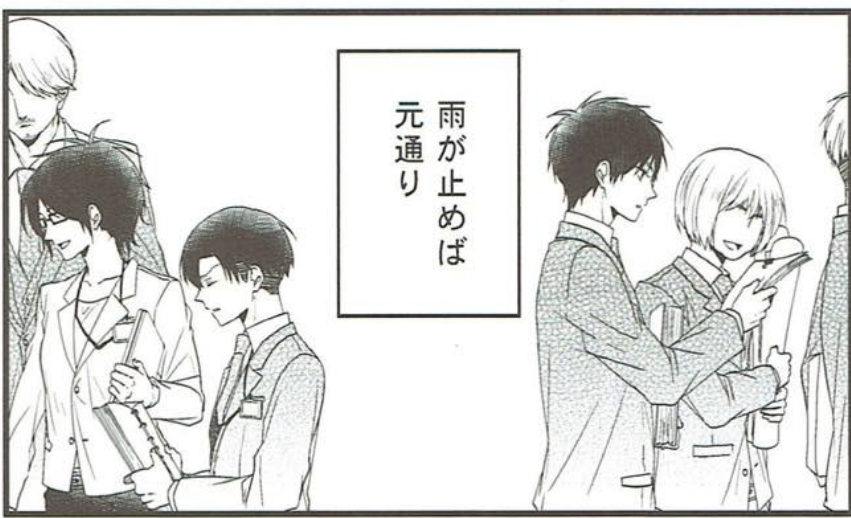
たしかに  
課長の言うように

行為にだけ  
集中していれば



適度に性欲の  
発散にもなるし

特に  
取り決めたわけ  
ではないけれど



雨が止めば  
元通り

二人で帰るのが  
恒例になった

後腐れもなく  
ちようどいい関係  
なんだろう

でも



—気持ち、

……?

……!

……る、せえ……

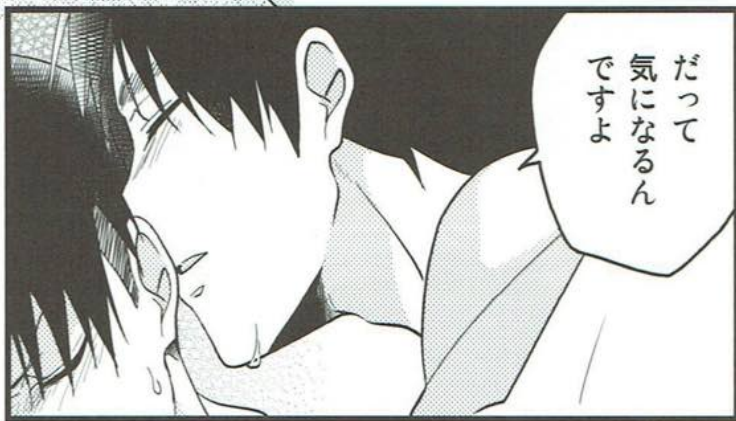
黙って、  
やれ……っ、

たまには  
聞かせてくれても  
いいのに



実はオレの声

結構好きで  
いてくれたり  
するのかなって



だって  
気になるん  
ですよ



オレが喋ると  
ここ、すげえ  
締まるから

う……っ





……？

どうした？  
……おい、



イエーガー



そう思って  
くれてたら  
良かったのに

濡れ始めている  
自覚はあった



ズ  
ィン

いってえ…！  
何しやが…

エレン

……っ！

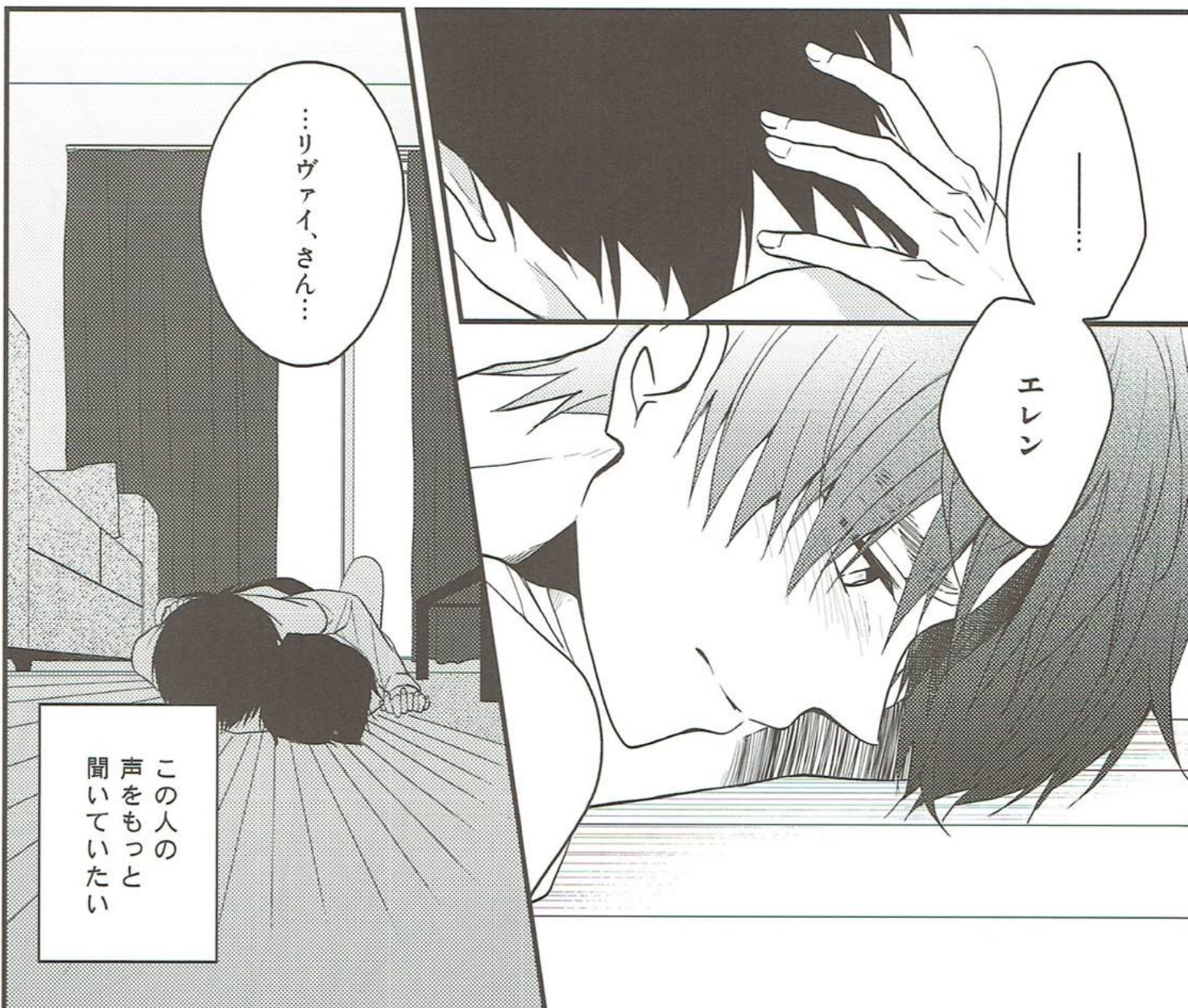




エレンって  
呼んでください



今だけで  
いいから



…リヴァイ、さん…

…  
エレン

この人の  
声をもっと  
聞いていたい

都合が  
よかったはずの  
雨音が

いつしか  
邪魔になった

おはよう

今日は  
随分寒いね

あ、エレン  
おはよう

天気も  
悪いしな

おは



降ってきた



雨じゃ  
なかったか？

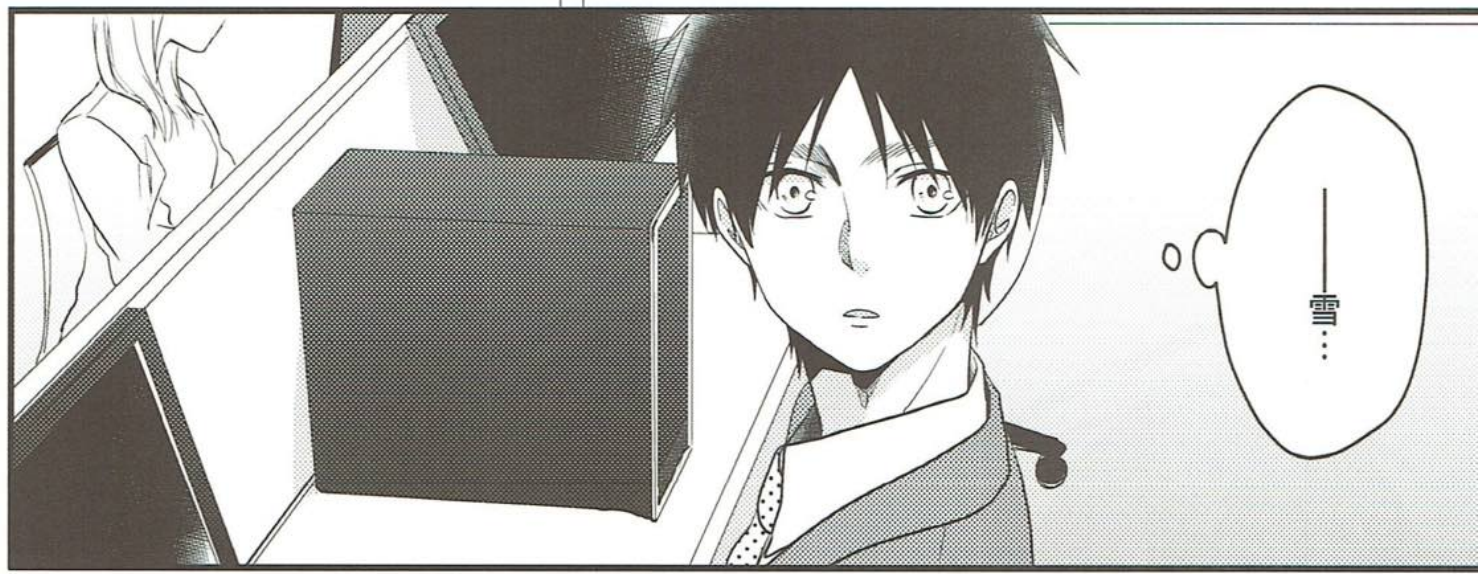
予報だと今日  
一日雪になる  
らしいね



朝変わった  
みたいだよ

うげー  
マジか...

...あ、ほら



...雪...



ねえ今日  
鍋でも食べに  
行かない？

ミケたちも  
誘ってき！

朝から  
やばい...



リヴァイ  
おはよー！

...ああ



— そうだな

行くか



「季節の終わり」

それは

予感していた  
終わりの形のうちの  
一つだった

にしても最近  
雪ばっかりだよな

冬眠してえ

こう毎日  
寒いとねー

あれから

課長と二人で  
会うことは  
なくなった

結局どうして  
オレにあんなことを  
許したのかとか

あの人の気持ちは  
わからないまま

そういえばエレン  
最近元気ないね

風邪でもひいた？

いや…別に、

大丈夫



みっともないのは  
分かってるけど

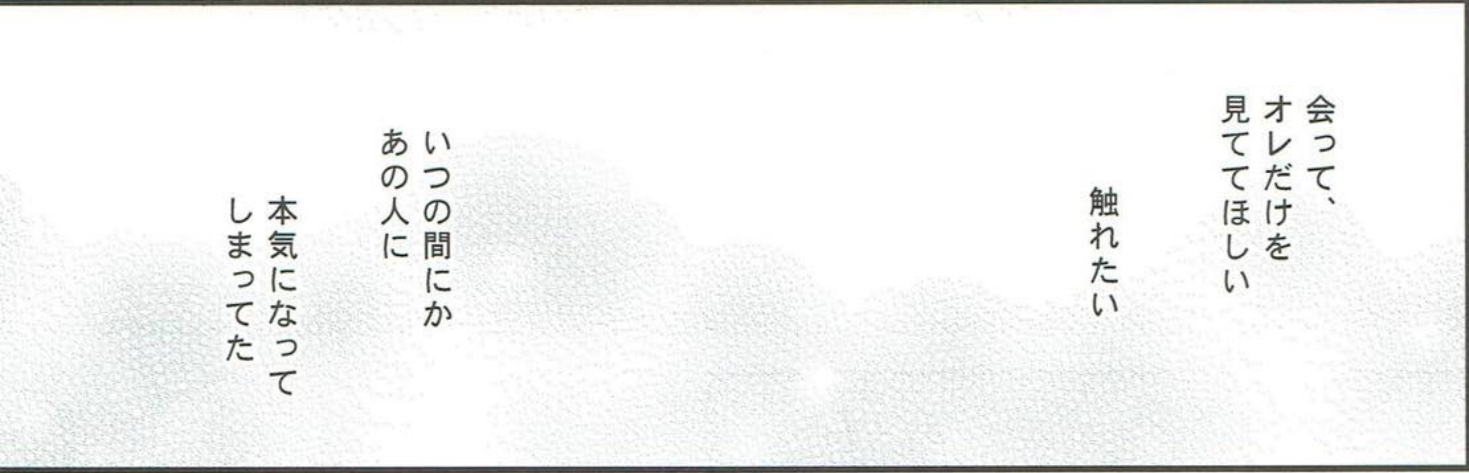
そんなことを  
ぐるぐる考えて



また何か理由を  
でっち上げて  
うちに誘えば

もしかしたら  
あの人は来るの  
かもしれない

でも、  
来なかったら？



会って、  
オレだけを  
見ててほしい

触れたい

いつの間にか  
あの人に

本気になって  
しまった



あ…わり、  
聞いてなかった

本当に大丈夫？  
調子悪いなら  
無理しない方が…



エレン！

…ン



ねえ聞いた？

今日の夕方  
エルヴィンこっち  
帰ってくるって

らしいな

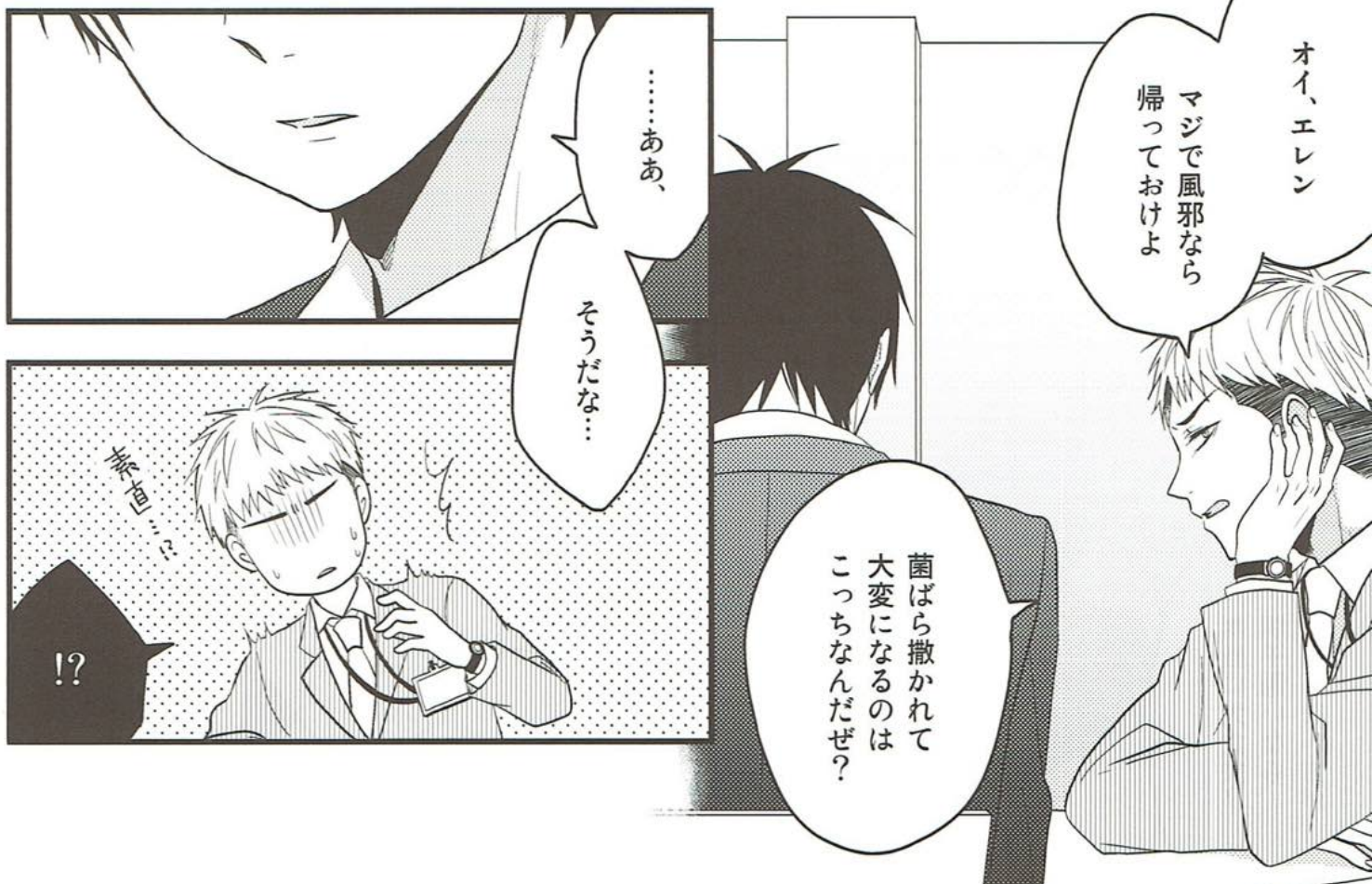
だから今晚出張  
お疲れ様の会  
やってあげようよ



ついでに何人か  
うちの課の子たちも  
来るんだけど

貴方と  
話したがってる  
子が結構いてさー

…随分物好きだな  
連中だな



オイ、エレン

マジで風邪なら  
帰っておけよ

菌ばら撒かれて  
大変になるのは  
こっちなんだぜ？

……ああ、

そうだな…

撒包…

!?



…大丈夫か？  
アイツ…

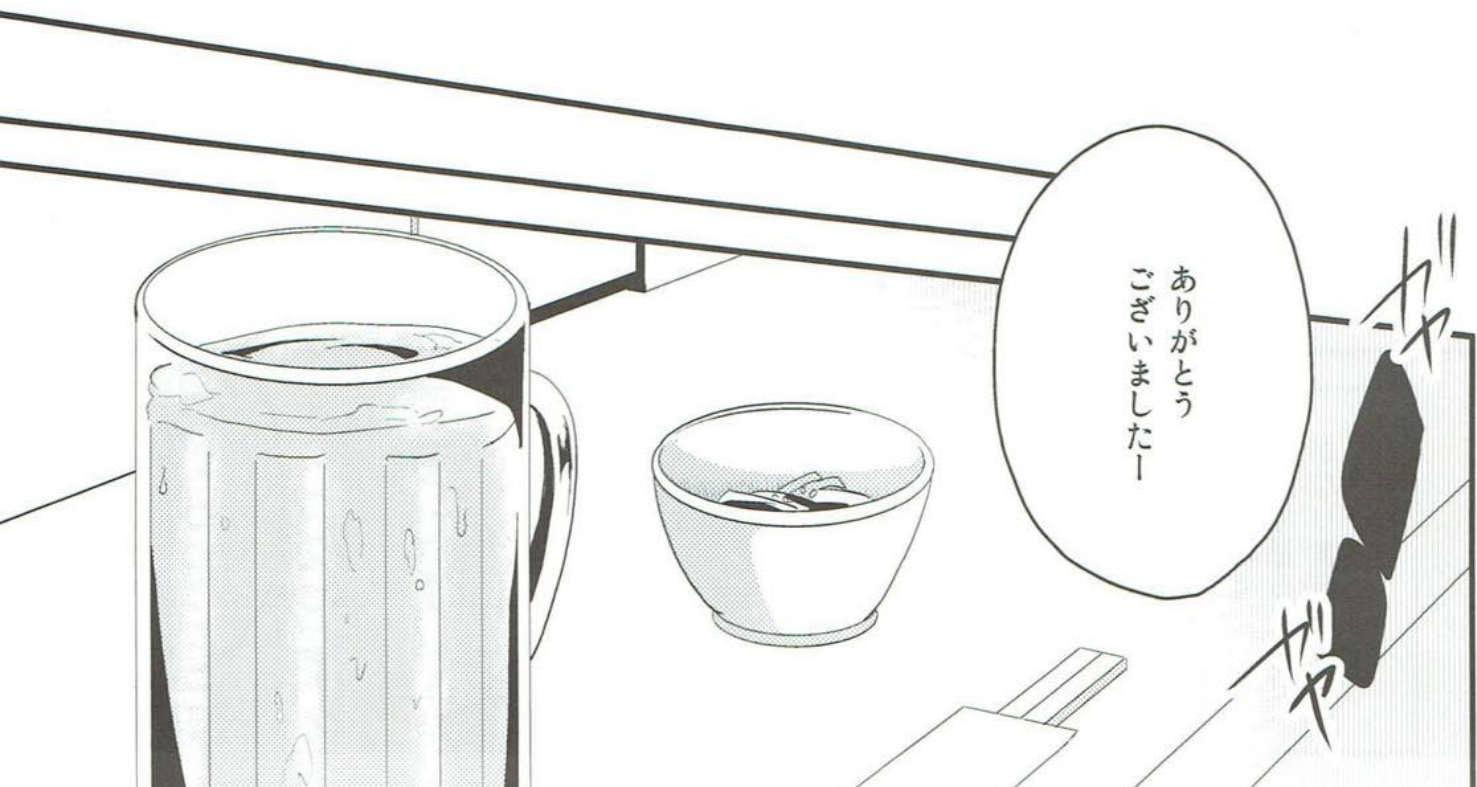


さあ…



悪い、アルミン  
オレ帰るわ

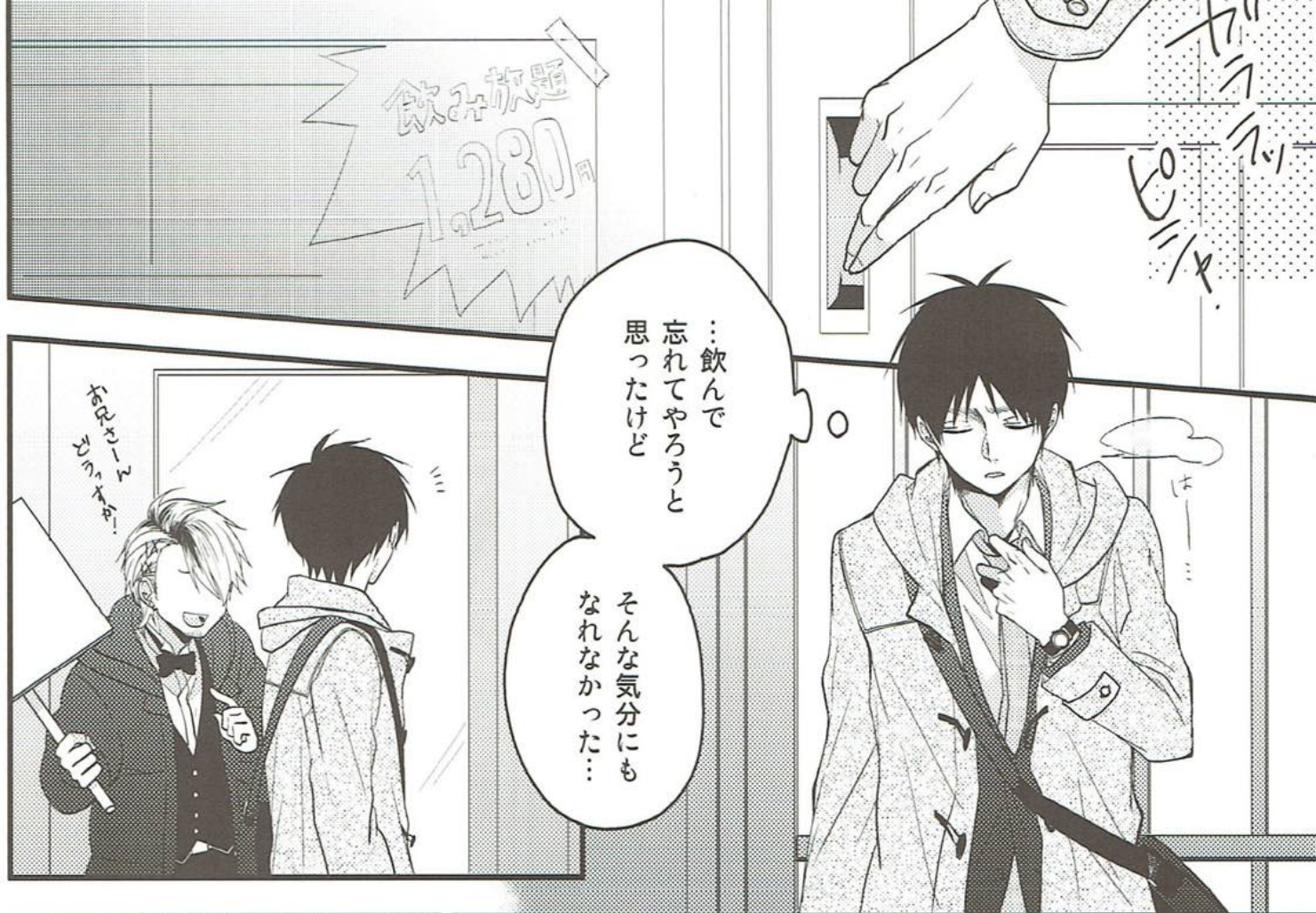
えっ、あ、  
うん…！  
気を  
つけてね…？



ありがとう  
ございましたー

ガッ  
ガッ





…飲んで  
忘れてやろうと  
思ったけど

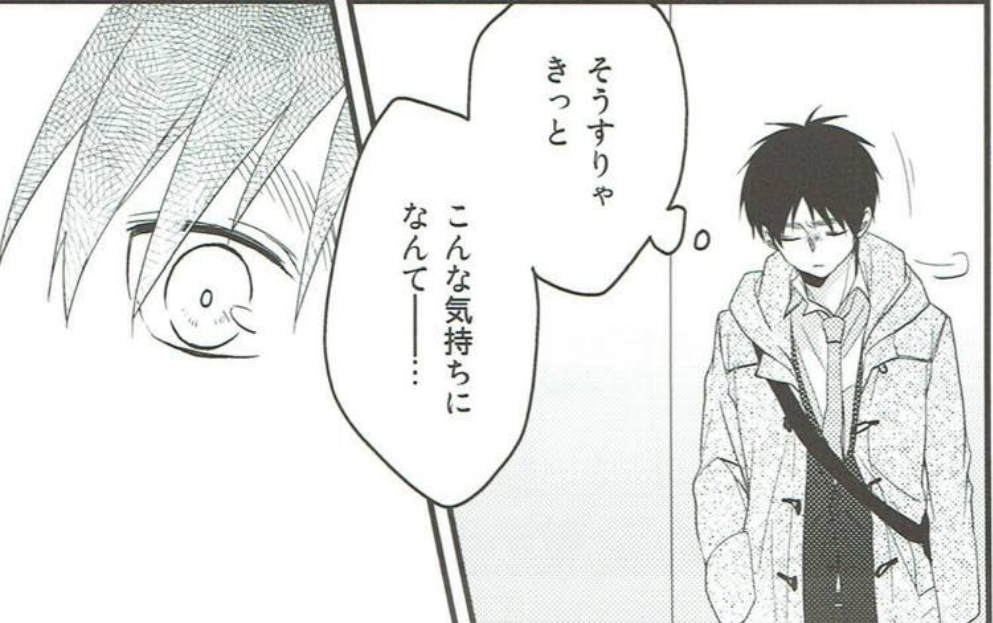
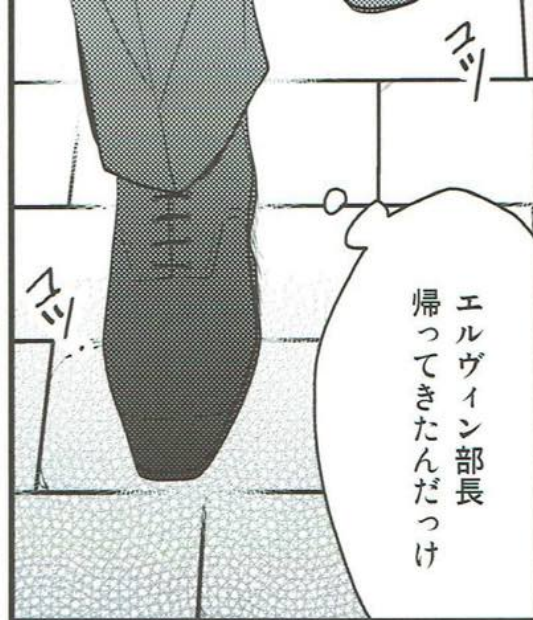
そんな気分にも  
なれなかった…



…  
あの人が  
かわいい

そんな事を  
本気で思う当たり  
かなり重症だ

おねー!?





課、長…?

え?

え?



やっと  
帰ってきたか

…よお、



体調不良だって  
聞いてたから  
様子見にな



…なんで



いるんですか…





…身体、  
すげえ冷たい

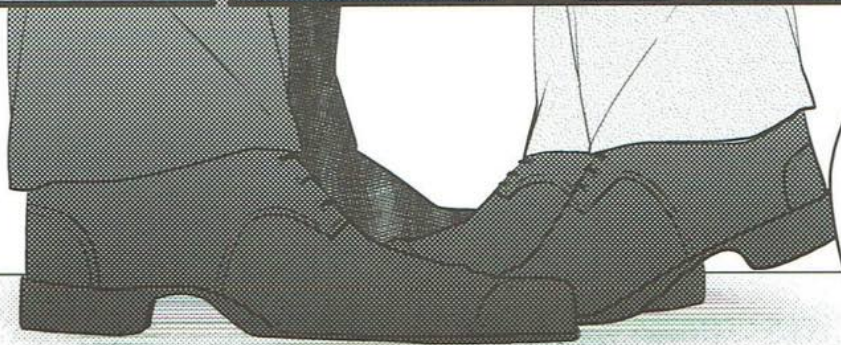
……さあな

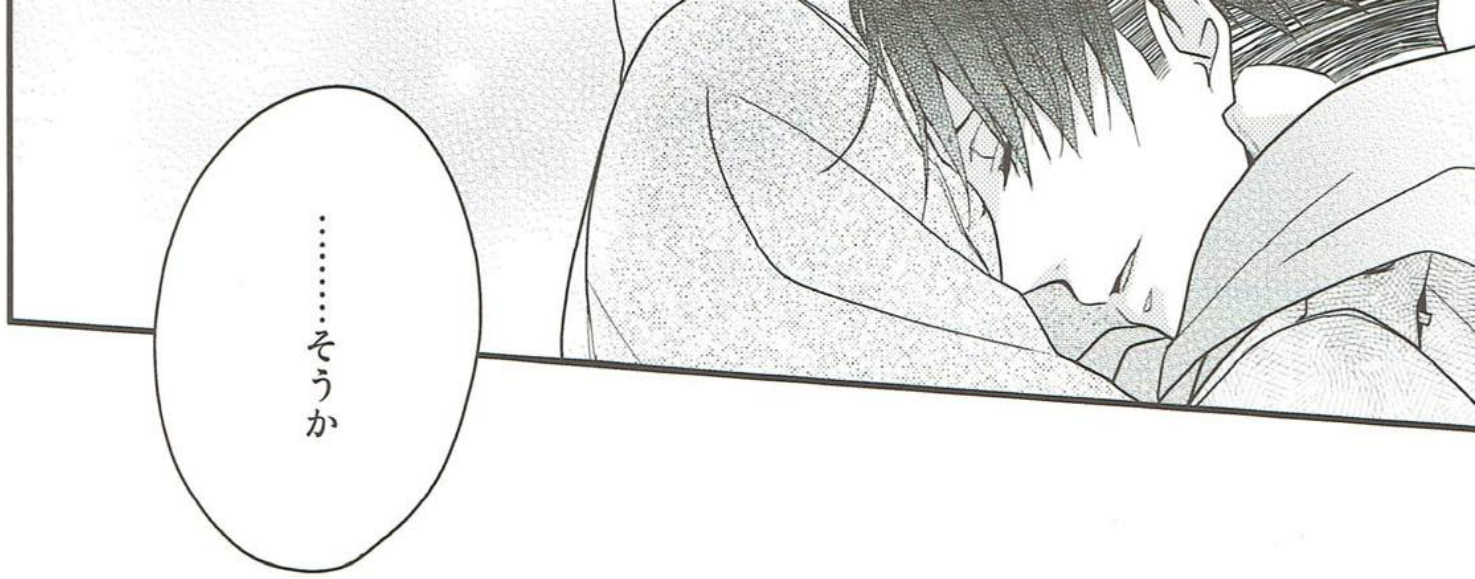
時間なんて  
いちいち  
見てねえよ

いつからここに  
いたんですか

それに今日、  
飲み会だって…

行ってない





.....  
そうか



んっ  
う、



あつ  
あつ

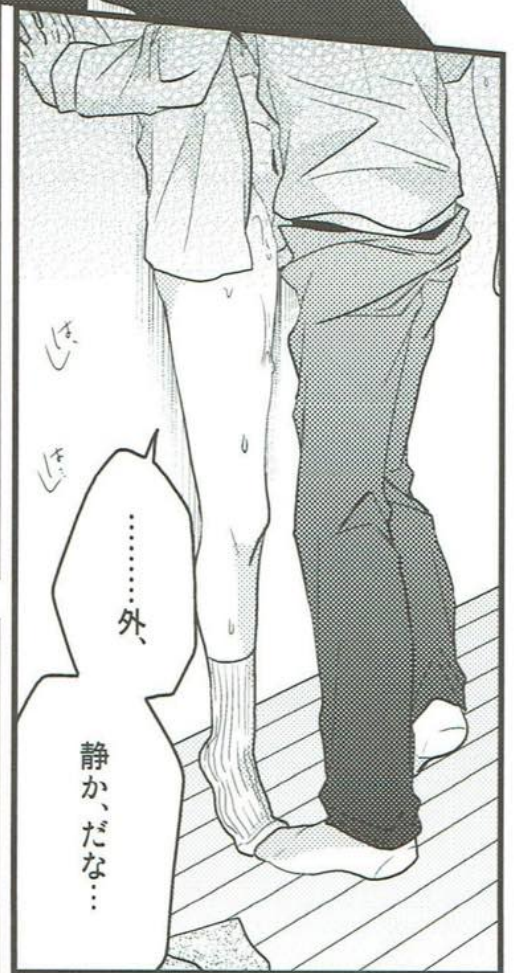
...っ

あ、

ふ

は

は







.....なあ、



お前の声、

もっと聞きたい

...っ、

.....え...?



フッ.

勘違いしちゃ  
ダメなんでしょう？



...前は、

黙ってるって  
言ってたじゃ  
ないですか

…らや、  
もう  
認める

お前の声  
…好きだ

…っ

だから…  
名前、  
呼んでくれ  
— リヴァイ、さん  
…ん、っ



っ、あ、  
あ……!

リヴァアイさん……っ

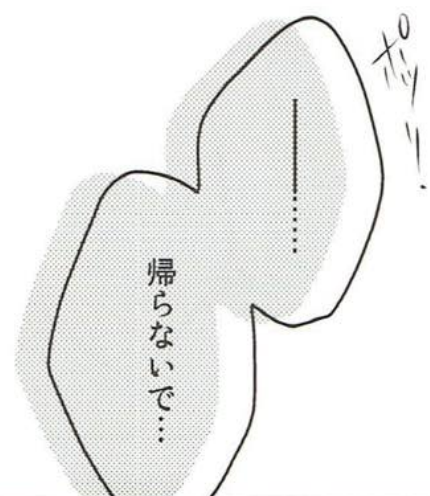


リヴァアイさん



は、

う、  
あっ



帰らないで……



黙っていなく  
ならないで  
ください……

……多分もう、  
アンタのいない  
朝に耐えられない



は、



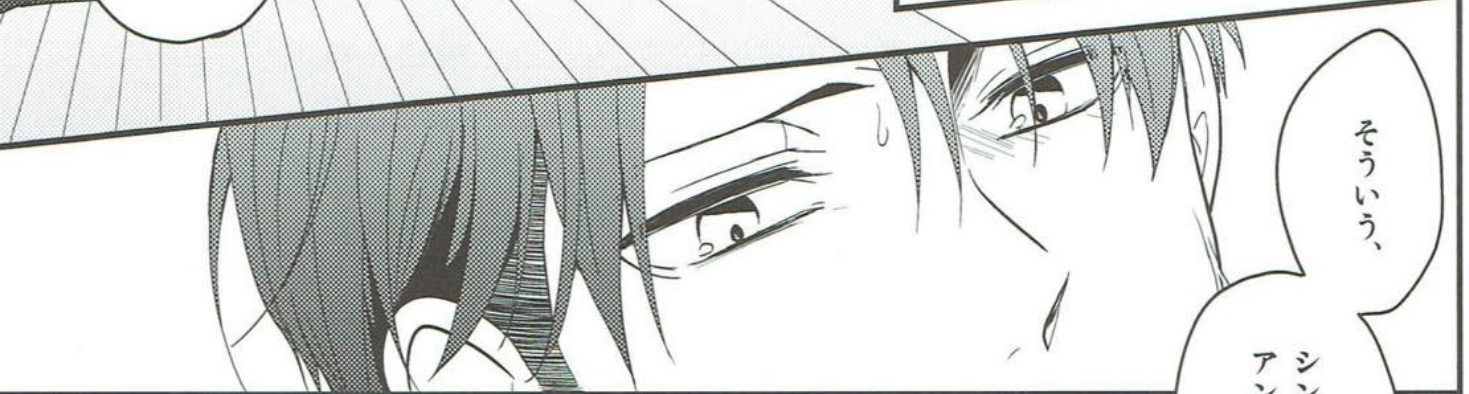
—オレ、

アンタが  
好きです

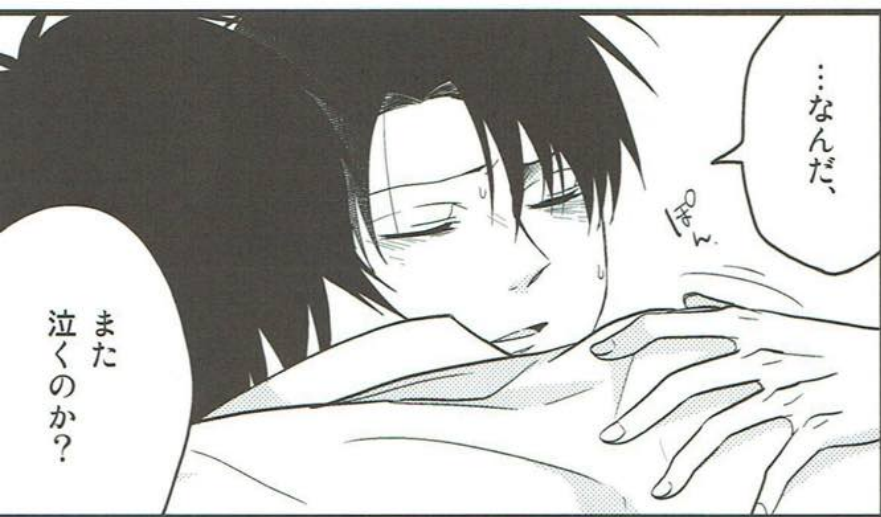


雨が降ったとか  
止んだとか

もう、  
やめましょう



そういう、  
シンプルな理由で  
アンタといたい



…なんだ、  
ほん

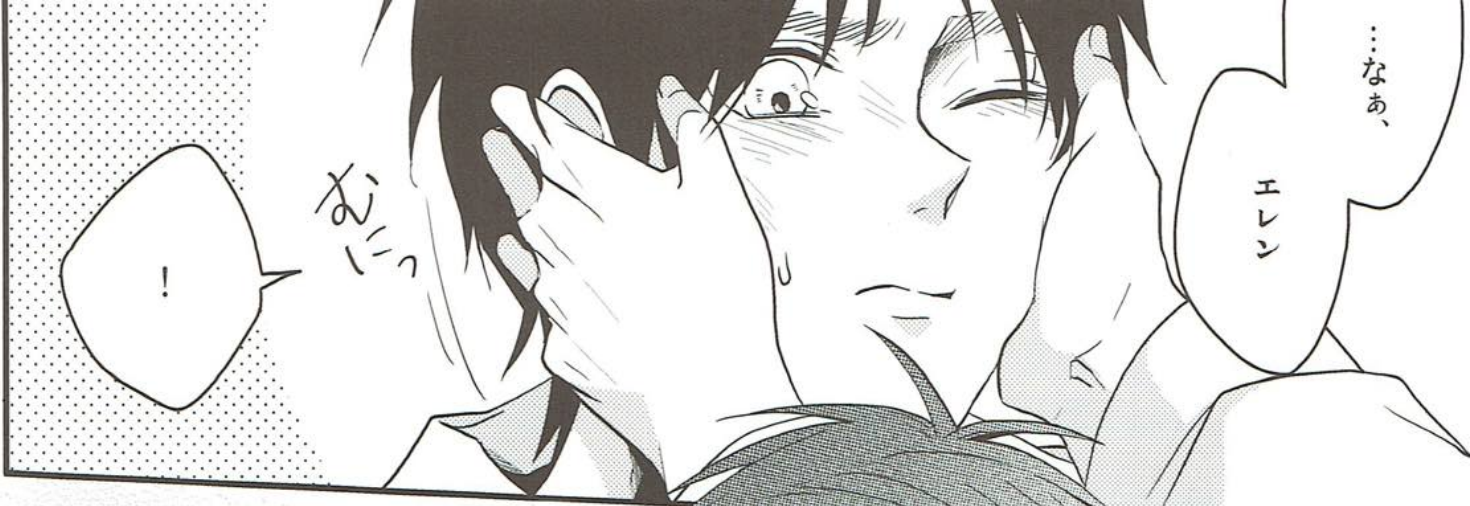
また  
泣くのか？



…ダメですか



…泣きません



!

むいっ

エレン

…なあ、



そこは

『今夜は帰さない』  
とでも言っておく  
べきだろうか？



……  
リヴァアイさん

……ん？



……



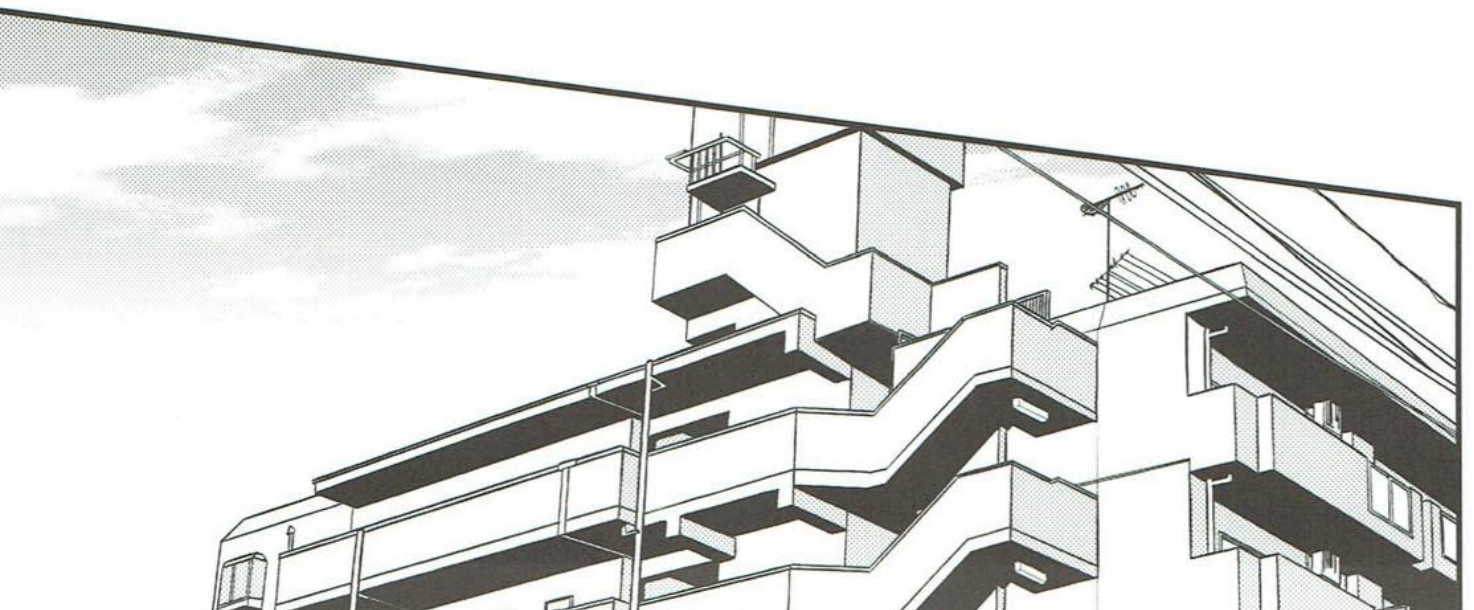
そうすりゃ  
少しはカッコも  
つくってのに

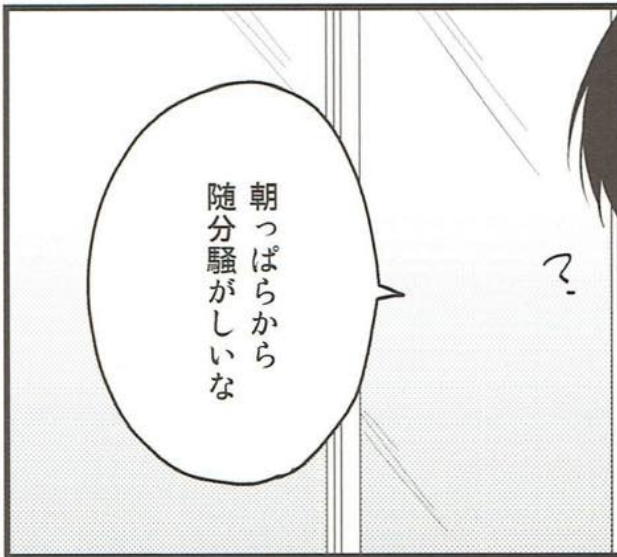
情けねえツラ  
しやがって



…今夜は  
帰しませんから

遅えよ、バカ





朝っぱらから  
随分騒がしいな

...おはよう



「おん...」

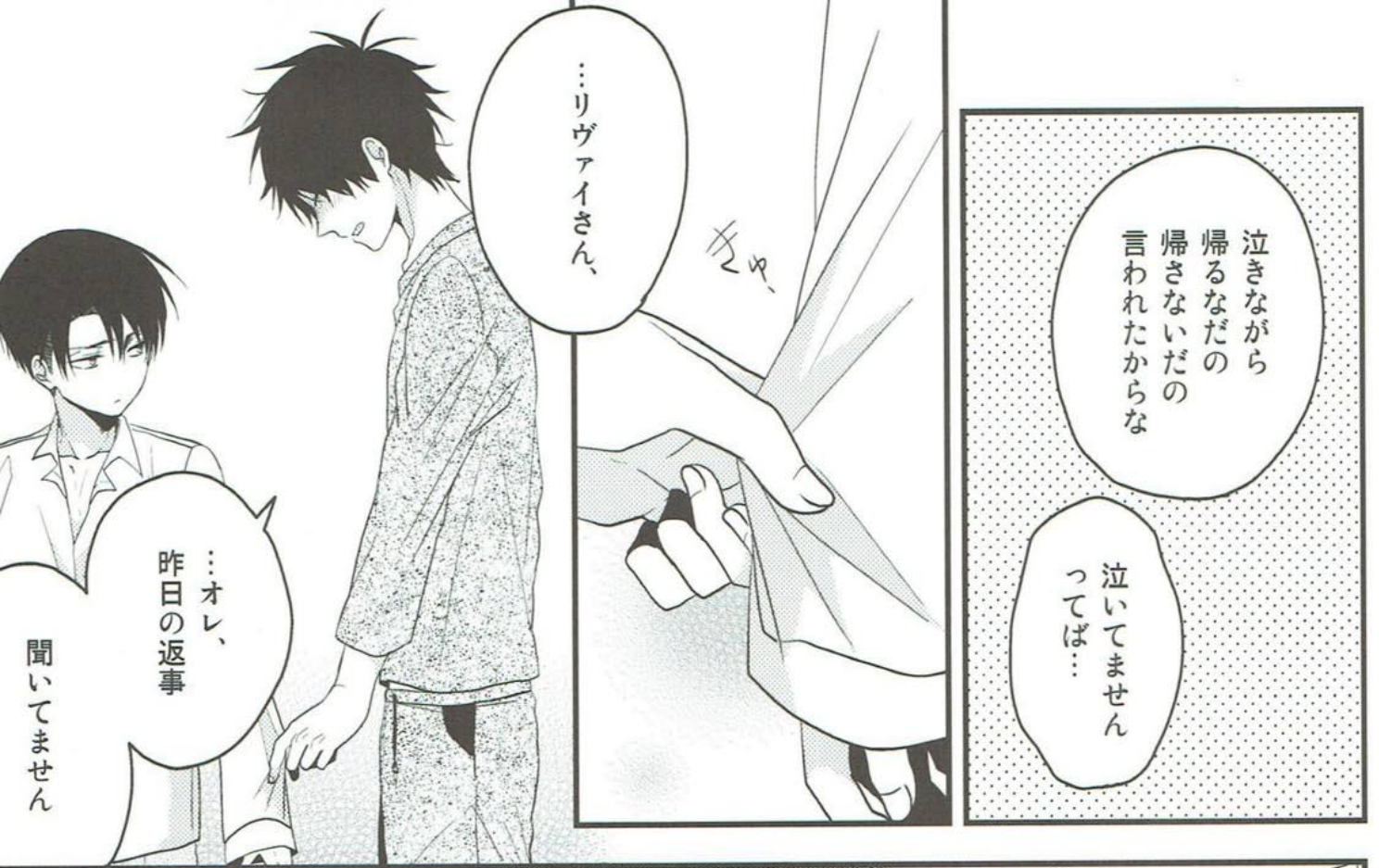
...だって、  
起きたら  
いないから

おん  
すげえ顔だね

なんて顔だ  
お前

「おん」

...っ！







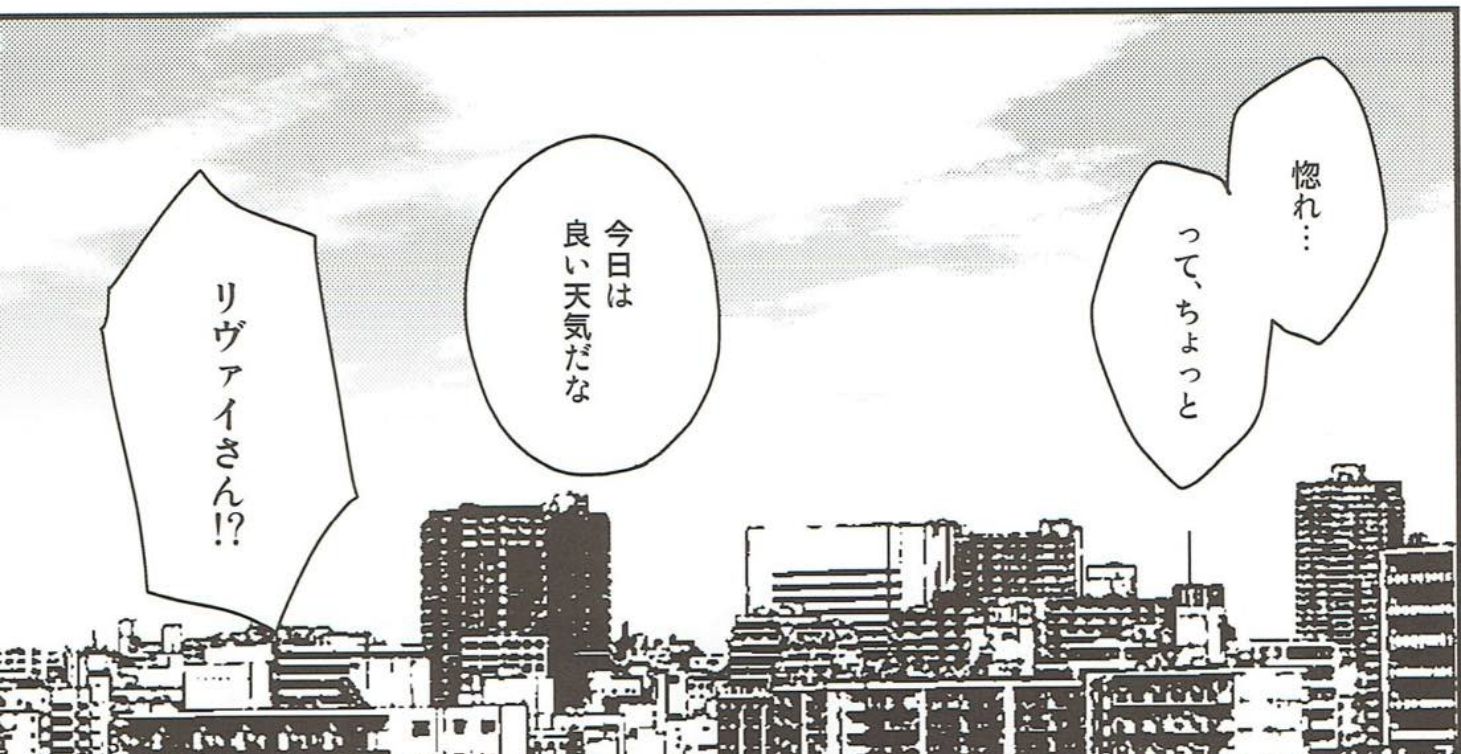
どうして俺が  
お前に惚れたのか

…そうしたら  
嫌ってほど  
間かせてやるよ



……え？

……



リヴァイさん!?

今日は  
良い天気だな

惚れ…  
って、ちょっと

実はリヴァイさんはエレンに一目惚れしていたってオチでした。

入社時の履歴書写真で一目惚れ

↓

自分の部署にもらう

(エレンとどうこうなるつもりはなく、ただ目の保養にしたかっただけ)

っていう設定でした。

どうこうなるつもりはなかったのにエレンの方から手を出してきて、

しかも意外とエレンがぐいぐいくるので

リヴァイさんの方は内心どぎまぎしていた感じです。

時間がもっとあればリヴァイさん視点も描きたかったです…無念…

ここまで読んでくださりありがとうございました！

なう



# そらのまにま

2017.12.30/NO\*MARK/暁なう  
HP : <http://nonmark.oboroduki.com/>  
MAIL : nonononomark@yahoo.co.jp  
PIXIV : 1342518

印刷:松本コロタイプ光芸社様

原作者様ならびに出版社様とは一切関係ございません。  
無断転載やオークションへの出品は  
ご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

ATTACK ON TITAN UNOFFICIAL FANBOOK #14 / PRESENTED BY NO\*MARK IN 2017 WINTER